



相手と共に高め合う 卓球を目指す

是常浩一郎さん(70)
兵庫県・姫路教会

昔取った杵柄とは、このことか。中学校の部活動で卓球を始めた是常浩一郎さんは、中学、高校時代に県大会出場という成績を残している。それから半世紀以上、キレのある動きは今も健在。ダン！と大きく踏み込んでスマッシュを打つと、白球が相手コートに突き刺さる。実業団に四年間所属した後は卓球から遠ざかっていたが、十年間のブランクを経て、高校時代の先輩の誘いで再びラケットを握る。健康のため、という軽い気持ちだったが、久々に白球を追うと「やっばり、これだ」とわくわくした。トレーニングを重ねて着実に体力と勘を取り戻した是常さんは、市や県の大会で実力を発揮するようになる。二〇一九年には、富山県で開催された全日本ラジボール卓球選手権大会の

年齢部門で、全国三位に輝いた。

その腕前を買われて、生活協同組合のシルバークラスのコーチを任されたのは七年前のこと。近隣の市民クラブの仲間からも「個人的に指導してほしい」と頼まれ、現在は週三回シニア世代を対象に指導にあたっている。相手を負かすことだけを目指すのではなく、健康で楽しくラリーを続け、互いに高め合える卓球が信条だ。

「一口に卓球といっても、いろいろな楽しみ方があります。八十代の方、ペースメーカーを入れてくれる方など、体力も目指すレベルもさまざまです。法華経の教えを伝えるのと同じで、相手に合わせる事が大切」と語る姿勢は、立正佼成会姫路教会の青年部活動で培われた。二年前からは、文書布教担当として活躍している。

自身も、左目に「加齢黄斑変性」という視界が歪んで見えるハンデを負っている。「それでも今、卓球ができることがありがたい」と、朗らか。今日も軽やかにステップを踏み、シニアの生徒たちに卓球の楽しさを伝えている。



*立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」

<https://rikkanokai.jp/community/>

4月1日から上記ウェブサイトでもこの記事をご覧いただけます。